



会員近況

大学(Graduate School of Management, University of Rochester, Rochester, New York 14627, USA)に長期出張いたします。近くにお越しのさいにはお寄りください。また、ロチェスターの事情について何かご存じのことがありましたならお教えてください。

お願いばかりの会員近況になりましたが、今後ともどうぞよろしくお願い致します

日本IBM 画像システム開発 伊藤 秀俊

現在、開発研究所で IMAGE PROCESSING の仕事をしております。以前、STANFORD 大学では、OR 学科、EES 学科で、G. DANTZIG, D. LUENBURGER, K. ARROW, R. HOWARD 教授の授業を主としていました。

最近、KNOWLEDGE ENGINEERING の分野で、N. NILSSON, E. SHORTLIFFE, HAYES-ROTH あたりの論文もよく読みます。

MCKINSEY で、経営戦略立案の仕事をしていた時期もありまして、直感的にも、今後情報処理、OR 人工知能、経営管理とのあいだには、学問としても、事業としても、巨大な OPPORTUNITY があり、世界的競争はこれからが正念場だと考えます。

日本語言語で KNOWLEDGE BASE に表現し、アメリカ製の VLSI で、ソビエトの学生が統合された“常識”で会話できる日がきて、平和外交がはじまってほしいと祈るこのごろです。

広島修道大学 商学部管理科学科 海生 直人

教職について5年があっという間に経過いたしました。研究はずっと信頼性理論、特に点検、取換えといった保全性理論の研究を主にやっておりますが、並行して新しい分野として心理学の分野の方々と一緒に脳波の数理モデル、特に確率モデルの研究をしております。まだとりくんで日が浅いので暗中模索の段階です。どなたがこの分野に詳しい方がおられましたなら、どうか文献、方向など、なんでも結構ですので、ご教示ください。また保全問題でおもしろいものがありましたならお教えください。

次に、今年の9月から1年間アメリカのロチェスター

足利工業大学 経営工学科 川中子敬至

ついこの間、研究をまとめて卒業して行ったと思ったら、もう新しい卒研究生が入ってきました。毎年のことですが、彼らにとっては一生に一度。こちらも真剣に取り組まなくてはと思うと、なかなか大変です。今年は、所属する坂田研究室でのテーマ希望が、「信頼度の図式推定」と「脳波の画像表現」の2つに集中し、そのうちの1つ（信頼性）を受け持つ私のところも、昨年の倍の人数に増えました。

例年ですと私は、個人個人に小テーマ（初期採取データ、不完全データによる推定や寿命解析など）を与え、それらを統合発展させて、全体で1つの大きなテーマ（信頼度推定の方法論）とする方法をとっています。そこで、卒研究生と同じ数の小テーマを用意し、まとまるようにレールを敷くのが、私の仕事となるわけです。ところが人数があまり多いと、きめ細かな指導ができず、脱線転覆するのではと、気がかりです。

来春の卒研発表会もさることながら、彼らも、また私自身も満足できる何かが得られるよう、努力したいと思っています。昔から言われているではありませんか、“OR（終り）良ければすべて良し”と。